

にいがた労福協

ライフサポートセンター

No.51 2022年10月15日発行

一般社団法人 新潟県労働者福祉協議会

〒950-0965 新潟市中央区新光町 6 番地 2

Tel 025-281-0890 Fax 025-281-0891

E-mail ni-rfk@bz04.plala.or.jp

URL <http://www.niigataken-rofukukyo.com/>

発行責任者 岡 英輔

第9期にいがた福祉リーダー塾 新たな時代に対応する人材育成をめざす

7月1～2日(金・土)、新潟市万代シルバーホテルにおいて、社会情勢の変化の中で新たな時代に対応する人材育成をめざした、第9期にいがた福祉リーダー塾を開催しました。

連合、労金、こくみん共済coop、全港湾、ささえあい生協、ワーカーズ、コープデリにいがたから19名の塾生が参加しました。牧野理事長の主催者あいさつ、間専務理事のオリエンテーションの後、2日間の日程で5講座を受講し、最後にグループミーティングを行い、1泊2日の1回開催で完結する講座となりました。

受講生の皆さんは、最初は緊張した面持ちでしたが、終了間際には打ち解けた雰囲気となり中身の濃いリーダー塾となりました。



◆第3講座

①演題「労働金庫運動のこれから」

講師 労働金庫・常務理事 村山 義則氏

②演題

「こくみん共済coop事業のこれから」

講師 こくみん共済coop 新潟推進本部事務局長 佐藤 浩氏

◆第4講座

演題「チームワーク力を高め、性格分析し自分の強みを知る」

講師 マインドウェルネスアドバイザー 鈴木 美和氏

◆第2講座

演題「地域で暮らす子ども・家庭の現状と新潟県内のNPOの取組事例」

講師 新潟県立大学・教授 小池 由佳氏

◆第1講座

演題「歴史から学ぶ労働運動・労働者自主福祉運動の理念とこれからの役割」

講師 中央労福協講師団・講師 高橋 均氏

講師 新潟県立大学・教授 小池 由佳氏

講師 マインドウェルネスアドバイザー 鈴木 美和氏



◆第5講座

演題「志と気概を持って社会運動を進ませよう!」

講師 中央労福協講師団・講師 山本 幸司氏

なお、第5講座の、山本幸司氏の講演内容は、新潟県労福協TV(YouTube)にアップしましたので、視聴願います。

労働金庫から生活資金や住宅資金を
借り入れる際の保証人となる

**勤労者のための
信用保証機関です。**

【保証引受の実績】

(2022年8月31日現在)

保証引受の内容	保証引受残高	
無担保ローン	27,864件	37,548,252,301円
有担保ローン	8,712件	97,421,622,650円
合 計	36,576件	134,969,874,951円

一般財団法人 新潟県労働者信用基金協会

〒951-8113

新潟市中央区寄居町332番地18

新潟労信協 専務理事 中村 綾男

新潟労信協が解散



新潟労信協は、設立以来、新潟労金の融資を通じて、主に未組織労働者の生活安定と福祉の向上に寄与することを目的として事業を行ってきましたが、本年10月28日に日本労信協へ事業譲渡し解散することとなりました。

新潟労信協は1975年（昭和50年）に、当時の新潟労金理事長を理事長として、設立時の財産4,000万円（労金、総合生協がそれぞれ2,000万円を拠出）で、全国で38番目の地域労信協としてスタートしました。その後、県内の全自治体や連合新潟、労福協などからも出捐金をいただいてきました。

この間の皆様のご支援ご協力に感謝申し上げます。

お陰様で、住宅ローンやマイカーローンなど、延べ13万9,000件、5,620億円の保証引受を行い、組織労働者はもちろん、多くの未組織労働者の方の生活向上にも寄与できたのではないかと思います。

しかし、新潟労信協も含めて、一時は全国に45の地域労信協がありました。が、経営上の問題や、労働金庫の統合等の関係で、既に39の地域労信協が日

本労信協へ事業譲渡を行い、残っているのは、新潟労信協を含めた6労信協のみとなっています。

事業譲渡先の日本労信協は、全国の労働金庫が設立した保証機関ですが、この間、労働金庫の系統保証機関として、「競争力のある保証サービスの提供」や「労働金庫業態に資する保証制度の確立」などを目指し、保証料の引き下げや保証条件の緩和等の施策を打ち出してきており、システム対応も含めて規模の小さい地域労信協では対応できない状況になってきています。このような状況から、新潟労信協は日本労信協へ事業を譲渡し、解散することとなりました。

永年のご支援に深く感謝いたしますとともに、今後は日本労信協に対して新潟労信協と同様のお引き立てをいただきますようお願い申し上げます。



新潟ろうきん夢咲Clubは
〈ろうきん〉に加入していない事業所にお勤めの方が
〈ろうきん〉を利用する際にご加入いただくメンバーズクラブです!

ご入会

新潟ろうきんの県内26店舗で入会手続きができます。
 加入申込書は新潟ろうきんの全店舗に備え付けてあります。※入会金や会費は必要ありません

ご加入
いただける方

新潟ろうきんとお取引がある、あるいはお取引を予定されている方で、
 以下のいずれかの加入条件を満たす15歳以上の方となります。

- 1 新潟県内に居住または勤務する勤労者の方など
- 2 将来、新潟県内に居住または勤務する予定のある方

おもな活動と
会員サービス

- 会報誌「夢咲Club通信」の発行
- 暮らしに役立つイベントなどの開催
- 安心の無料相談ネットワーク(弁護士無料法律相談、健康ダイヤルなど)

ご加入は最寄りのろうきん本支店窓口へ。お問い合わせは新潟ろうきん夢咲Clubまで。

新潟ろうきん夢咲Club

〒951-8113 新潟市中央区寄居町332番地38 新潟県労働金庫本店5階
 TEL 025-201-8765 FAX 025-201-8755
<https://www.n-yume.jp> 新潟ろうきん夢咲Club 検索

東部ブロック

第235回幹事会および
2022年度事業団体責任者会議報告

7月20日(水)、東部ブロック労協第235回幹事会および2022年度事業団体責任者会議が山梨県甲府市「ホテル談露館」において、33名の参加で開催されました。

幹事会は、岡田東部ブロック会長の挨拶の後、中央労福協・南部事務局長から6月2日(静岡県静岡市)に開催された全国研究集会(ハイブリッド)の御礼がありました。

報告事項では、東部ブロック各都県で対応した、日本難病・疾病団体協議会国会請願署名実績と、団体からの感謝の報告がありました(東部ブロック全体28、567筆、内新潟県8、865筆)。

協議事項では、①ライフサポート事業経験交流(9月12日・静岡県)、②2022年度代表者会議・第236回幹事会(10月5・6日・長野県)、③第57回定期総会(11月30日・茨城県)の開催内容について各々協議しました。

各県報告においては、新型コロナウイルス感染症の状況下であっても、創意工夫して労福協活動の推進に向け活動が行

われている実践報告がありました。

新潟県労福協からは、昨年10月1日以降の、ライフサポート事業の変更や地区労福協体制の強化、奨学金ネットワーク設立と、高校生奨学金支援の取り組みなどについて説明しました。

事業団体責任者会議では、テーマ設定を「コロナ禍における利用促進(各事業団体の認知度向上)・共助拡大(事業団体の社会的責任)と各事業団体が加盟団体に望むこと」として、率直な意見交換が行われ有意義な会議となりました。



東部ブロックライフサポート経験交流から

連携先を拡げるには――

「解決策に困った時の連携先、繋がり先を見つけない」「リピーター対応に苦慮している」「活動資金の確保、どうする」:

「暮らしの困りごと何でも相談」(※労福協ではライフサポートセンター事業とも呼んでいます)を取り組む労福協東部ブロック内1都10県の相談担当者、事業運営者が静岡市に会し日頃の悩み、課題を共有し解決策を探りました。

9月12日(月)、労福協東部ブロック「ライフサポート事業経験交流」が静岡市駅前「静岡県勤労者総合会館」で開催されました。関係都県から32名、新潟からは金内孝永主任、皆川清市相談員をはじめ4名が参加しました。

新型コロナウイルス禍で久々3年ぶりの開催となった本交流会では、この間提起された連合の労働相談体制集中化の影響や、相談員が確保できない県の悩みなどそれぞれ率直な課題を報告し確認し合いました。年間相談4000件超の先進県も、現在、相談体制が組めない県も困りごとを寄せる相談者に役立ちたいと考え行動していることは同じでした。

新潟からは昨年10月に相談機能充実を目指し相談拠点を長岡に一極集中し対応に当たっていること、ひきこもりの子とその親御さんの長期に亘る一進二退の付き合い、両親が旧統一教会に入信している子の相談事例等を報告しました。



経験交流第一部の講演では、静岡県内12市で・ひきこもりアウトリーチ・一時生活支援・自立相談支援・フードバンク・就労支援等々数多くの事業を行う鈴木和樹氏(NPO法人POPOLO事務局長)の事例紹介から、相談者に積極的に関わることで、新たな支援者と出会い連携が広がることを学びました。

皆さんの職場でもお住まいの地域でも困りごと、悩みごとを抱える方は多くいるはず。そうした方を見かけたら迷わず0258-86-8898「新潟県ライフサポートセンター」を教えてください。



「生理の貧困は生理を経験する人だけの問題でなく、社会みんなで、どうすれば生理のある人が生きやすい社会を作れるか考えよう」というテーマで今年の「女性のひろば」は開会しました。

「生理の貧困」、男性にもある「更年期離職」、そして「ジェンダーギャップ世界146か国のうち116位の日本の現実」と、衝撃の気付きを改めて与えられた第5回シンポジウム「女性のひろば」(中央労福協主催)は9月5日(月)、WEB形式で開かれ、新潟からは労金協会ルート、労済労連ルートからの出席を含め9名が参加した。

第5回シンポジウム「女性のひろば」 生理はみんなの問題です!

ました(全国からは168名が視聴)。

第1部は「#みんなの生理共同代表」谷口歩実氏、第2部に「全国労金協会政策調査部長」山口郁子氏を講師に、・生理用品購入費用が生活費を圧迫している現実・更年期症状で不本意な退職を迫られる人が57万人いる・大変な仕事は女性に割り当てないとい

こくみん共済coop

新潟県総合生活協同組合第68回通常総代会および こくみん共済coop新潟推進本部第5回組合員代表者会議

7月28日(木)新潟市ANAクラウンプラザホテル新潟にて、新潟県総合生協第68回通常総代会およびこくみん共済coop新潟推進本部第5回組合員代表者会議が、300人(出席・60人、委任状・3人、書面議決・237人)の総代(組合員)が参加し開催されました。

小野塚理事長(本部長)から、「1955年10月1日新潟大火が発生し、発足間もない火災共済制度のため手元資金がない中で、当時の寺本事務局長は「借金はいつか返せない」と、一千万円(現在の10億円相当)の借財を負ったが、共済金を全額支払った過去を学び、共済制度の重要性を改めて認識することが大切である。こくみん共済coopに移行して4年目となる、新潟は日本一の推進本部を目指す取り組みを進める」との力強い挨拶がありました。

う配慮は好意的差別になる、について学びました。

人間を女性・男性と二分することを前提とした社会ではなく、「人」としてお互いを尊重し合える世の中の実現には、まず男女不平等の現実を見つめる必要がある、と強く感じたシンポジウムでした。道のりは長く遠そうですが、しなやかに頑張ります。

総会では、全ての議案が承認されました。

また、こくみん共済coop新潟推進本部第5回組合員代表者会議では、2022年度新潟推進本部推進活動計画について確認しました。



労働組合等にご加入の方へ

金利上昇局面の中!「ろうきん」はあえて!

あんしん住宅ローン

金利引下げ!!

変動金利

年0.9% → **年0.85%**

全期間固定金利型

年1.75% → **年1.55%**

期間限定 2022年 9月1日~3月31日

金利引下げ

【あんしん住宅ローン商品概要】 ●二重貸金/最高1億円 ●返済期間/最長40年(全期間固定金利型の場合は最長35年) ●お祝い金 ●新築・増改築・土地購入・他金融機関からの住宅ローンの借換えetc. ●担保/土地・建物 ●申込手数料/無料(※労働組合等にご加入されていない方が100万円以上のお申込をされる場合は申込手数料55,000円(税込)が必要となります。) ●保険/団体信用生命保険付き(ご夫婦が連帯債務者である場合、ご融資金利に年0.1%上乗せで、夫婦連帯団体信用生命保険をお選びいただけます) ●保証/保証機関の保証 保証料はろうきん負担(※労働組合等にご加入されていない方がお申込をされる場合は別途、保証料が必要となります。)

※対象となる労働組合等についてはお問い合わせください。※金利適用条件・項目は、金利優待等により見直しする場合があります。※審査結果により、ご希望に添えない場合があります。※保証人をご希望いただくことにより、ご利用いただける場合があります。※労働組合等にご加入されていない方は金利が異なります。※店頭またはホームページで最新情報の掲載をいたします。※詳しくは店頭に説明書をご用意しております。※実行金利は2022年9月1日現在

新潟ろうきん **新潟ろうきん** **検索**

NPO法人フードバンクにいがた

2022年度第5回通常総会



8月23日(火)、「NPO法人フードバンクにいがた」第5回総会が「南区白根健康福祉センター」において、48名(出席14名、委任状34名)の参加で開催されました。

総会では、第1号議案、2021年度事業報告(寄贈食品・約400トン、19年度約50トン、20年度約280トン)第2号議案、2021年度決算報告、第3号議案、2022年度活動計画(案)、第4号議案、2022年度予算(案)について、協議しいずれも満場一致、賛成多数で承認されました。特に第3号議案では、事業方針①フードバンクにいがた3センター制(新潟・県央・柏崎)の廃止と現場組織の独立化、②認定NPO法人化に向

けた賛助会員登録の促進、③各団体(フードバンクにいがた、新潟県フードバンク連絡協議会、にいがたフードバンク連盟)の統合連絡組織設立に向けた協議(役員改選含む)について、論議を行い提案内容を承認し、早急に各団体との協議に移行することを確認しました。

フードバンクの活動の原点は、「SOSを発信し食料を必要とする方に適切に提供する、体制と組織」つまり、支援組織・団体・個人の連携が最も重要であることは、論を俟ちません。

なお、本年は役員改選年ではなく引き続き、高見優理事を中心に取り組みを進めることとし、総会を終了しました。



2022年10月1日から新潟県の

地域別最低賃金は

890 時給 円



午後10時～午前5時に
勤務する場合
深夜割増25%を加算

1,113 時給 円

- ✓ 最低賃金は、国が法に基づいて定める「賃金の最低額」です
- ✓ 最低賃金は、都道府県ごとに毎年、見直されています
- ✓ 会社は、最低賃金額以上の賃金を支払う義務があります
- ✓ 最低賃金額を下回る賃金は法律違反となり、下回った場合、差額を請求できます
- ✓ 最低賃金は、パートタイマーや学生バイト、臨時、嘱託など雇用形態や呼称に関係なく、原則すべての労働者とその使用者に適用されます

あなたの賃金は…?



「おかしいな?」「低いかも?」と思ったら
なんでも労働相談ホットラインへ



労働相談
チャットボット
「ゆにぽ」

スマホ・
携帯OK

0120-154-052



日本労働組合総連合会新潟県連合会(連合新潟)

下越地協・新潟地協・佐渡地協・県央地協・中越地協・柏崎地協・上越地協



新潟県協同組合間提携推進協議会

第32回新潟県協同組合間提携研究集会

7月8日(金)、新潟市「朱鷺メッセ」で県協同組合間提携研究集会が約120名(会場・オンライン)の参加で開催されました。

高橋提携推進協議会委員長から、「1923年に7月の第一土曜日を国際協同組合デーとして定められ、毎年世界中で取り組みを進めてきた。新潟県では今回32回目の開催となる。今後は、協同組合間の一層の連携のもと、協同組合に対する世界的な、期待・評価を十分に意識し誇りを持って、組合員・地域住民のニーズに応え持続可能な地域社会を築いていくSDGsの取り組みをさらに充実させる契機とした」と挨拶がありました。

基調講演では、「『日本3百名山ひと筆書き』Great Traveler se3」で体験した自然と人の出会いを語る田中陽希氏(プロアドベンチャーリーダー)から、自身の取り組んできた実体験に基づく、山との出会い自然とのふれあい、人との出会いを通して感じてきたことを、壮大な活動写真のごとく切々と講演され、多くの一般参加者の心をつかむ内容の講演が



ありました。

実践発表では、①JA共済連新潟・管理部 樋浦祐貴氏から「JA共済の地域貢献活動について」、②新潟県中小企業団体中央会・連携推進課主席堀勝弘氏から「私たちの活動を紹介します」と題して、具体的取組事例が各々から説明されました。

最後に、県内の各地域、各職場、各分野において、安全・安心で心豊かな暮らしと持続可能な地域づくりに向けた事業を展開し、協同組合運動に邁進するとして「新潟CPC宣言」を採択して閉会しました。

お住まいの保障、
見直してみませんか？

台風

火災

雪害

地震

住まいの保障点検

実施中!

保障点検強化期間

2022年10月1日(土)～11月30日(水)

住まいる共済

火災共済・自然災害共済

こくみん共済 coop
公式キャラクター
ピットくん

住まいる共済は
**Webで加入
できます!**

お見積りのみでも
OKです! ※WEB加入には一部
制限があります。

強化期間中に共済ショップまたは所属団体を通じて
住まいる共済のご相談・お見積りをした方に

3WAY アイマスク プレゼント!

自宅で簡単
アイケア
グッズ!

裏側はジェルに
なっていて冷やしたり
温めたりできます

※色(ゴールド・シルバー)はお選びいただけません。
※在庫状況によっては、他のノベルティをお渡しする場合がございます。

「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

こくみん共済

全国労働者共済生活協同組合連合会

新潟推進本部

(新潟県総合生活協同組合)

第1回消費者志向経営普及啓発セミナー

事業者と消費者がともに考える
つくる責任 つかう責任

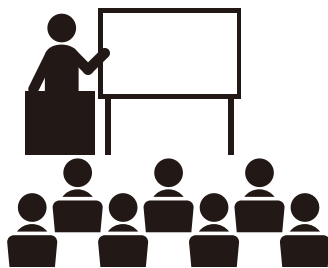
9月24日（土）新潟市ユニゾンプラザにおいて、第1回消費者志向経営普及啓発セミナーが、主催・新潟県、企画・運営が適格消費者団体NPO法人消費生活ネットワーク新潟によって開催されました。

参加者は、83名（会場40名・オンライン43名）でした。

基調講演では、坂倉忠夫氏（（公社）消費者関連専門会議ACAP専務理事）からACAPの使命と消費者に最も近い事業者団体として、消費者志向経営は六方よし（消費者よし、事業者よし、社会よし、従業員よし、未来よし、地球よし）の取り組みが重要であるとの講演がありました。

事例報告は、亀田製菓(株)商品本部マーケティング尾関太一郎氏（マネージャー）から、お客様の声を生かした共創マーケティングの取り組みを報告いただきました。

意見交換を通じて、双方向コミュニケーションの実践の重要性を改めて考えることのできたセミナーとなりました。



新潟県日韓親善協会

2022年度新潟県日韓親善協会総会&ハンガワイ祭り

新潟県日韓親善協会は、7月25日（月）「2022年度定期総会・講演会・交流会」を73名の参加で開催しました。総会では、提案議案全てを満場一致で採択し、役員改選では、引き続き、片桐奈保美会長を選出しました。総会後の講演会冒頭、片桐会長から「新型コロナウイルスの影響で2年ほど交流が出来ていない、早く韓国と行き来できる日が来ればと思う」との挨拶がありました。

講師の吉澤文寿教授（新潟国際情報大学）からは「今日の日韓関係」と題して、戦時中の韓国人徴用工問題の解決を求める内容で講演をいただきました。

吉澤教授は、「2018年に韓国の大法院（最高裁）が韓国人徴用工に損害賠償を支払うよう日本企業に命じた判決に対し、日本政府が国際法違反だとして批判的対応を取って以降、両国関係が硬直化した、日韓関係の改善には徴用工問題を乗り越える必要がある、被害者が一番願っていることは日本企業と話し合うこと。日韓両国がその場をセッティングしていくべきだ」との見解を示しました。

講演会後の交流会には、日韓親善協会中央会の河村建夫会長から「すべて韓国側の責任という態度ではなく、日本は何ができるかを考えないといけない。草の根の市民運動を展開していくことが必要」との挨拶がありました。

9月8日（木）3年ぶりに「第5回韓国ハンガワイ祭りin新潟2022」が、駐新潟大韓民国総領事館主催で「新潟市民芸術文化会館」において開催されました。当日は、1,200名の県民の皆さんが参加し、韓国ハモニイがつなぐ日韓友好の公演が盛大に開催されました。



地区労福協からの たより



下越地区

下越地区労福協第11回定期総会を、7月14日(木)「イクネスしばた」にて開催しました。

新型コロナウイルス感染症により、2年ぶりの集合型の開催となり、第45回連合下越地区協議会の代議員が総会代議員として出席しました。来賓として新潟県労福協・間専務にご出席いただき、県労福協が取り組んでいる活動、7地区労福協、県ライフサポートセンター、新潟県奨学金ネットワーク、フードバンク提携等の取り組みについて話がありました。

事業計画については、退職者組織、地域NPO、フードバンクと連携し、地域における労働者福祉の向上をめざし、活動課題の実現を図って参ります。

また、連合新発田支部は、第93回新発田地区メーデーの開催中止に伴う社会貢献活動として、フードドライブを実施しました。米91kg、レトルト食品、日用品等を寄付していただき、5月10日に「フードバンク」



ばた」武田事務局長にお届けしました。今後とも下越地域フードバンク活動を各支部で支援していきます。

新潟地区

10月1日(土)、毎年恒例の新潟地区労福協・連合新潟地域協議会の主催による「サツマイモ収穫体験祭」を開催しました。5月21日に苗植えされたサツマイモ、さてさて今年の出来栄はいかに…。

当日は天候に恵まれ、組合員や家族を合わせ150名を超える参加者が新潟市江南区大淵の芋畑集合、大いに賑わいました。毎年参加される手慣れた方から、初めての芋掘りに悪戦苦闘する子供たちなど、大きく育ったサツマイモと楽しく格闘していました。ご覧ください、この大きく育った今年のサツマイモ！



収穫したサツマイモは、社会貢献活動の一環として新潟地区労福協・連合新潟地協と連携している「にいがたお米プロジェクト」のイベント

佐渡地区

や福祉施設へも寄付されます。参加者の皆さんからも袋いっぱいサツマイモをお持ち帰りいただきました。さてさてどんなお料理になるのか楽しみですね。参加いただいた皆さんお疲れさまでした。

9月13日(火)アミューズメント佐渡はまなすホールにて「2022さどワーク&ライフセミナー」として10月施行の労働者協同組合法を学ぶと「Workers被災地に起つ」の上映会を開催しました。

この間、4月「2022にいがた協同集会」、6月県労福協総会記念講演「持続可能で活力ある共生社会を耕す協同労働の可能性」など自分なりに理解してきたつもりでしたが、関係団体に上映案内するもうまく伝えられず、はたして観に来てくれる人はいるだろうか、心配な日々が続きました。更に、8月のお盆明けより島内の新型コロナウイルス感染者が急増。一日百人を超える日が続き、開催そのものも危ぶまれる状況でした。

そんな折、ワーカーズコープ本部長の川原さんより上映後の補足説明の提案と関係者への呼びかけの話をいただき、とても心強かったです。

そして、各労組の協力もあり当日は33名の参加で無事に行うことができました。

この映画は東北震災の被災地域の抱え



る問題を「協同労働」の実践で解決されているお話しでしたが、同じような課題は佐渡にもたくさんあります。独り住まいの高齢者の孤立、人口減少による過疎化、ひとり親世帯の生活困窮など。

既に島内で「協同労働」を地域で実践されている方々と連携し、協力いただきながら、新しい働き方を実現させ、持続可能で活力ある島つくりを目指すのであればと感じた上映会でした。

長岡地区

環境と農業を考え、体験する！

河川敷に広がる遊休地を活用した体験型農業を、連合中越・労金・フードバンク・NPO「une」・地区労福協で行っています。4月は、ジャガイモの植え付けと、ウクライナの人の安心を思い、ひまわりの種まきを行いました。作業終了後に河川清掃も行い、弁当をいただきました。5月には、ハロウインかぼちゃを植え、6月はサツマイモ、長ネギを植え、7月は雨の中ジャガイモの収穫を行いました。

9月はサツマイモ畑の草取り、白菜と大根と冬菜を植え11月には畑仕舞いと餅つき大会、来年の春収穫を目指す玉ねぎを植える計画です。



いろいろな人たちが集まって、農業を通じて交流し、「農」の楽しさ、作る喜びをめざしています。

小千谷地区

7月30日(土) 小千谷市楽集館にて連合小千谷支部・小千谷地区労福協合同イベント「生活安心セミナー」&「平和活動」を開催しました。

セミナーは、ワークルールと働き方改革と題し連合新潟桑原典子副事務局長をお招きし、お話をいただきました。労働基準法をはじめ、賃金や労働条件、労働組合等について詳しく説明いただき、働き方改革から労働相談に至るまで幅広い内容であつという間の1時間でした。今回の参加者は各組織の役員が多く、自組織に照らし合わせながら理解を深めることができたし、改めてチェックする良い機会となりました。

また、「平和活動」では広島原爆ポスター展示会を開催し原爆と戦争の悲惨さを学びました。



上越地区

上越地区ワーク&ライフセミナーを、9月15日(木)に上越市民プラザにて開催しました。

新型コロナウイルス感染症により、3年ぶりの集合型の開催となり、一般参加も含め、51名の皆様が参加されました。

「Workers 被災地に起つ」上映後、「協同労働で地域を元気に」のテーマで、にいがた協同ネット江花事務局長よりご講演を頂きました。

協同労働で仕事をする事、そして、2022年10月1日施行「労働者協同組合法」についてお話をいただき、理解を深めたところです。

今回のセミナー参加者の殆どが、初めて「協同労働」に触れた方達なので、まずは学び合う事からになります。今後「労働者協同組合法」の活用による様々な活動により、地域課題の解決・就労機会の創出や地域活性化につながる発端となり、一助になればと思います。



コープデリにいがた

「あなたらしさ」が選べる生協、コープデリです。

コープデリは、関東・信越1都7県で335万以上の世帯にご登録いただいている、日本最大の生協です。たくさんの宅配サービスや生協があるなかで支持されている理由はきっと、それぞれの「ぴったり」が見つかるから。原料へのこだわり、価格帯、家族の人数、etc... どんなニーズもおまかせください。

コープデリなら、つかうほどじぶんらしくなれるあれこれが
選べる、見つかる。



コープデリが大切にしている6つのこと



豊かで楽しい食卓へ。

ふだんのくらしに必要な商品を提供し、毎日のくらしに貢献します。



安心して家族へ。

提供する全ての食品の安全性の確保に取り組めます。



声をかたちに。

組合員さんの声を大切に生協の商品を開発・提供します。



つながり、育む。

生産者と組合員さんをつなぐ「産直」に取り組めます。



「食べる」を伝える。

食育「たべる、たいせつ」を通じて食による健康な暮らしを提案していきます。



未来につなげる。

環境にやさしい事業とくらしを目指します。

ご加入手続きは簡単!

今すぐ! Webでお申し込み

コープデリ 加入 検索



こちらからもアクセスできます

調査・研究事業報告

連載／第3回

「ウイルス禍での労働」から何を活かすか
― 変わる生活、感染拡大状況下の諸課題 ―

公益社団法人 新潟県自治研究センター

感染者発生届の全数把握簡略化や全国旅行支援の実施決定など、新型コロナウイルス関連の施策は新たな段階に入ろうとしている。オミクロン株対応2価ワクチンの接種も始まっている。しかし、この間のウイルス禍で、「日常」や「暮らし」に大きな制約と変化を求めてきた諸施策が、十分に検証・総括されたうえで新たな対応策だとは言いがたい。「新しい生活様式」という言葉まで使われたこの2年半余、私たちの生活には何が起こったのか。「ウイルス禍・アフターコロナと労働環境」をテーマに、2022年3月に発行された報告書所収の論文のうち、今回は、生活に関わる3本の論文を紹介する。

「過去の話」ではなく

本県も含めた16都県で、まん延防止等重点措置が適用されたのは今年1月21日である（期間は3月6日まで）。本書の執筆が2022年1月段階に

あったこともあり、当時喫緊の課題と受け止め、まん延防止等重点措置の概要や発出当時の感染状況に触れた論文が、「オミクロン株の感染拡大状況下の労働と生活」「まん延防止等重点措置」が適用された働き方と生活の留意課題」である。新潟県が「まん延防止」の要請を公表した翌日にあたる、1月20日の感染者数は、新潟市269人、長岡市37人、三条市21人など県内で469人であった。これは当時、過去最多を更新したものであるが、今日からみるとどのような感想を持たれるだろうか。感染者数の単純な比較だけで論じるべきではないものの、今日の感染状況をどう受け止め、新型コロナウイルス対策の過去と現在をどう考えるのかは重要な課題である。

同論文では、感染者への差別と偏見を防止すべきという点も強調されている。緊張と制約が求められた社会が引き起こす問題とは「過去の話」ではなく、「慣れ」や「緩み」のなかで忘れ

てしまってはならない、現在進行形の課題のひとつである。

また、「コロナ感染と便乗の『騙し』―コロナ禍に係わる詐欺行為と対策の一考―」では、ウイルス禍において横行したさまざまな詐欺行為について、消費者庁や国民生活センターの資料を示しながら注意を呼びかけている。「人の弱みに付け込む」ことは詐欺師や反社会集団の常とう手段であるが、ワクチン接種や検査キット、マスクなどを「ネタ」に、どのような手口で詐欺が行われているのか、さまざまな事例が紹介されている。そして、これらは、「対話や会話が制限され、その機会が縮小される」社会的背景があるとも指摘されている。「この流れは、数年落ち着くことはないと考えておくべきである」とも述べられているが、全国旅行支援等、新たな施策が始まれば、またそれをつけ狙う新たな詐欺が生まれるであろう。「騙されない」という意識を再確認するためにも、意味のあるレポートとなっている。

「切れてしまった切れ目のない支援」

「暮らし方が変わることは働き方にも影響する」という観点から、特に妊娠期の配偶者との生活や乳幼児を抱える家庭の課題に焦点を当てて論じたのが、「コロナウイルスから家族と家庭を守る―コロナウイルス感染下の現実と必要な危機認識―」である。一斉休

校や登園自粛、テレワークの要請などの施策は子育て家庭に大きな影響を及ぼした。各種公共施設の利用停止、公民館などの事業開催の中止、対面による各種相談の制限など行政サービスの相次ぐ休止もまた、子育ての「孤立」や、ひとり親世帯に伴う諸課題の要因として指摘されている。

同論文では、そのなかでもウイルス禍の下での虐待について触れており、「虐待の多くが外部からの通報や調査によって明らかになることが多いが、家庭内の自粛・孤立の環境では社会的なコミュニケーションの減少状態によって表面化することが少なくなる」という問題も指摘している。

医療体制についても同様である。第6波に際しても、感染拡大状況下での医療逼迫の不安は相変わらず言われ続けてきた。

妊娠、出産、子育てと続く「切れ目のない支援」の重要性は、仕事と家庭の両立支援の要として、今日誰もが理解しているところであるが、ウイルス禍の下でそれがどのような現実となったのかを今一度確認しておく必要がある。「感染が下火になったから」では、いつかまた問題が繰り返されるだけである。

(文責・新潟県自治研究センター

齋藤 喜和)

どの子どもたちにも夢と希望を「給付型奨学金シンポジウム」

日 時：2022年11月20日（日） 13：30から17：00
 会 場：新潟県立生涯学習推進センター 大ホール（定員95人）（新潟県新潟市中央区女池南3丁目1番2号）
 開催方式：リアル開催
 目 的：家庭の経済的な事情を理由に「学ぶ機会」を失わせてはいけない、新潟県で生まれ育った、未来の子どもたちの力になる取り組みを進めることを目的とする
 名 称：「給付型奨学金シンポジウム」
 主 催：（一社）新潟県労福協者福祉協議会
 給付型奨学金シンポジウム実行委員会（未来応援奨学金にいがた、新潟県奨学金ネットワーク）
 後 援：新潟県、新潟市、新潟日報社、新潟市母子福祉連合会、教育をよくする新潟県民会議

日 程	13：30	開会挨拶
	13：35	実行委員長挨拶（新潟県奨学金ネットワーク代表 弁護士・江花 史郎）
	13：40	新潟県知事挨拶（花角 英世 知事）
	13：50	記念講演（質疑含め60分） 演 題：奨学金問題を考える 講 師：小林 雅之 教授（桜美林大学 国際学術研究科）
	14：50	休憩
	15：00	新潟県内の状況報告 報告者：中村 健准 教授（新潟大学 歯学部）
	15：30	各奨学金実施行政機関・団体からの報告（各10分） ①新潟県（教育庁高等学校教育課） ②新潟市（経済部雇用・新潟暮らし推進課） ③（公財）丸山育英会 ④（公財）第四北越奨学会 ⑤（一社）未来応援奨学金にいがた ⑥（一社）新潟県労福協（新潟ろうきん福祉財団の高校奨学金事業拡充の取り組み）
	16：30	意見交換：
	16：55	まとめ（小林 雅之 教授）
	17：00	閉会

以 上

<新潟ろうきん福祉財団では・・・>

「新潟県民および勤労者の福祉向上」 に向けて、3つの事業を行っています!!

①県民・勤労者の福祉・文化向上に関する事業

- セミナー等開催事業（にいがたワーク&ライフフォーラム、文化講演会など）
- 福祉リーダー養成事業

②NPO等地域活動団体助成事業

- NPO等地域活動団体助成事業
- 休眠預金活用助成事業

③奨学金事業

- 高校生に対する奨学金給付事業

〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地2 勤労福祉会館4階

公益財団法人 新潟ろうきん福祉財団

URL <https://www.zaidan-hukushi.or.jp>

今後の日程

10月	3日(月)	新潟県ライフサポートセンター相談員検証会議 (長岡市)
	5日(水) ~ 6日(木)	東部ブロック「2022年度代表者会議・第236回幹事会合同会議」 (長野県上田市)
	6日(木)	弥彦村第2回プラットホーム検討会 (弥彦村)
	7日(金)	田上町第2回プラットホーム検討会 (田上町)
	12日(水)	社会保険協会講演会(新潟テルサ) 中央労福協第24回Web学習会 「奨学金ガイドブックの活用」
	17日(月)	湯沢町第2回プラットホーム検討会 (南魚沼市)
	21日(金)	神奈川県労福協結成50周年記念レセプション (横浜市)
	23日(日)	2022にいがたワーク&ライフフォーラムin柏崎 (柏崎市)
	25日(火)	第3回地区労福協事務局長会議 (勤労福祉会館)
	27日(木)	新潟市PS第7回支援調整会議 (勤労福祉会館)
11月	28日(金)	連合新潟第32回年次大会 (新潟東映ホテル)
	3日(木)	第32回新潟県勤労者駅伝大会 (ビッグスワンスタジアム)
	7日(月)	阿賀町第2回プラットフォーム検討会 (阿賀町)
	10日(木)	新潟県労福協第140回理事会 (勤労福祉会館)
	14日(月)	新潟県労福協期中監査 (三条市、勤労福祉会館)
		出雲崎町第2回プラットフォーム検討会 (出雲崎町)
	18日(金)	刈羽村第2回プラットフォーム検討会 (刈羽村)
	20日(日)	給付型奨学金シンポジウム (新潟市：新潟県立生涯学習推進センター)
	24日(木)	新潟市PS第8回支援調整会議 (勤労福祉会館)
	25日(金)	中央労福協代表者会議 (東京都・Web)
12月	30日(水) ~ 12月2日(金)	東部ブロック第57回定期総会、第237回幹事会(茨城県水戸市)および役員研修会
	22日(木)	新潟市PS第9回支援調整会議 (勤労福祉会館)
1月	5日(木)	2023年新潟県労福協新春の集い (ANAクラウンプラザホテル)

編集後記

◆2022年は、歴史に強く刻印が刻まれる異常な年となることは間違いない。まずは、うれしい事案から◆「アル中」、新潟県のサッカーファンは、アルビレックスのJ1復帰に酔いしれる年となるであろう。つまり「アル中」である。お酒の「アル中」ではなく、アルビレックスファンの狂信者に向けた、美しい呼び名であると友人から昔聞いた◆「五輪汚職」、現在捜査中で容疑者の罪は確定していないが報道されている内容が真実であれば、「金にまみれた東京五輪」として、永

久に語り継がれるお粗末な事案である◆「みなし公務員」とは、公務員と同等であることは誰でもわかる。過去に公務員ではないが、JR職員が釣銭を横領(百円以下)したとして懲戒免職となり、退職金をパーにした事案があった。状況は全く異なるがけた外れの賄賂に閉口である◆「国葬儀」9月27日は、歴史的な行事のあった日である。国民の約6割が反対する中で強行した葬儀は、誰のための何のための物なのか◆「民主主義」を無視して国民の声を聴こうとしない政権運営と、一部宗教団体(反社会的)と密接な関係のある議員は、無条件に解任されるべ

きである◆「ロシアによる戦争」親ロシア派による4州の編入の強行、核兵器使用をちらつかせる対応、日本領事のスパイ容疑での拘束など、日に日に、平和への道筋が閉ざされるつつある◆しかし、人間の英知を結集して速やかな停戦の道を全世界が模索するべきである。◆「第三次世界大戦はもう始まっている」(エマニエル・トッド著者)は、的確に現状を分析している著書である。だが、日本の核武装を推進する記載は論外である◆改めて発言するが、「戦争は悪である」

(新光町のカンペイ)

